Exhibition Schedule 2024.4-2025.3

4 Apr.

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 May

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	△4
△5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 Jun.

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	△29
30						

「新収蔵品展」
4月10日［水］－7月7日［日］

「静岡の現代美術と1980年代」
－4月7日［日］

7 Jul.

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	△6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 Aug.

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 Sep.

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

「ピラネージとローマの景観」
7月18日［木］－10月6日［日］

10 Oct.

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 Nov.

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 Dec.

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

「描く、作る、変化する：ロダン―《地獄の門》ができるまで」（仮称）
10月9日［水］－12月15日［日］

1 Jan.

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 Feb.

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 Mar.

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

「異国への眼差し」
2025年1月4日［土］－2月16日［日］

「絢爛たる花鳥画」
2月18日［火］－4月6日［日］

1994年3月に開館したロダン館は、2024年に30周年を迎えます。10月9日（水）～12月15日（日）には、開館30周年を記念し、ロダンの代表作《地獄の門》を様々な関連作によって紹介する収蔵品展「描く、作る、変化する：ロダン―《地獄の門》ができるまで」（仮称）を開催します。ロダン館の鑑賞と併せて、ご観覧ください。

開館時間　10：00―17：30（展示室への入室は17：00まで）

休館日　毎週月曜日
（月曜日が祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館。4月30日［火］、8月13日［火］は開館。）
その他館内整備等のための休館日　※詳細は中面カレンダーをご覧ください。

観覧料

区分	一般 個人	一般 団体	70歳以上	大学生以下
収蔵品展	300円	200円	無料	無料
企画展	展覧会ごとに異なります。詳しくは、ウェブサイト、ポスター、チラシをご確認ください。			

団体は有料観覧者20名以上。企画展ご入場の方は、収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます。
身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその付添者1名は、企画展・収蔵品展ともに無料でご覧いただけます。
※事前予約制を実施する場合は、ウェブサイト等でお知らせします。

実技室イベント
さまざまな体験プログラムを実施しています。
スケジュールはウェブサイトまたはパンフレット「実技室プログラム」をご覧ください。

車椅子・ベビーカー
インフォメーションで無料貸出いたします。

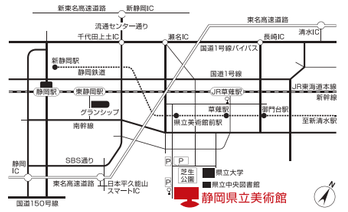
デジタルアーカイブ
https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/archive/
館蔵品検索システムの他、池大雅《蘭亭曲水・龍山勝会図屏風》の高精細画像やオーギュスト・ロダン《地獄の門》の3D画像等をご覧いただけます。

ミュージアムショップ　Tel: 054-264-8926
展覧会カタログ、美術図書、ミュージアム・グッズ等をお求めになれます。

レストラン
喫茶、お食事が楽しめます。美術鑑賞の合間にお立ち寄りください。

友の会　Tel: 054-264-0897
常時入会受付中。詳しくは事務局にお問い合わせください。

交通案内
JR「草薙駅」県大・美術館口から静鉄バス「県立美術館行き」で約6分
JR「静岡駅」南口からタクシーで約20分または北口から静鉄バスで約30分
JR「東静岡駅」南口からタクシーで約15分または静鉄バスで約20分
静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分または静鉄バスで約3分
東名高速道路・静岡IC、清水ICから車で約25分、日本平久能山スマートICから車で約15分または新東名高速道路・新静岡ICから車で約25分
周辺に大型バスを含めて約400台を収容できる無料駐車場があります。



お問い合わせ
〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2　https://spmoa.shizuoka.shizuoka.jp
企画総務課　Tel. 054-263-5755　Fax. 054-263-5767
学芸課　Tel. 054-263-5857　Fax. 054-263-5742

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

つながる、次へ

Calendar
○休館日 △夜間開館

Information
表紙：川村清雄《松竹梅》（部分）
中表紙：オーギュスト・ロダン《地獄の門》（部分）

テオ・ヤンセン展
4月13日［土］－7月7日［日］

オランダを代表する現代アーティストであるテオ・ヤンセン（1948–）によって生み出された、ストランドビーストの世界を体感できる展覧会です。ストランドビーストは、プラスチックチューブやペットボトルなど、身近な素材を組み合わせて作られ、風力によって歩行などを行う仕組みを備えています。本展では、様々な種類のストランドビーストとともに、映像やスケッチを展示することで、ヤンセンによる創作の秘密に迫ります。更に、会期中は毎日、巨大なストランドビーストが、風を溜めて歩行する、迫力のある姿をご覧いただくことができます。

テオ・ヤンセン《アニマリス・プラウデンス・ヴェーラ》©Media Force

カナレットとヴェネツィアの輝き
7月27日［土］－9月29日［日］

カナレットをご存じですか？彼は18世紀ヴェネツィアで活躍し、この水の都の情景を、鮮やかに描き出しました。イギリスからの旅行者達に非常に愛されたカナレットは、同地にも赴いて、幾多の名品を残しました。
本展は、彼の作品に代表される、都市や名所を精密に描いた景観画「ヴェドゥータ」をまとめてご紹介する、おそらくアジア初の展覧会です。モネ、シニャックなど、後の世代の画家達の描くヴェネツィアもまた、併せてご覧頂きましょう。大運河を行き交うゴンドラ、華やかな祝祭の様子を、旅人になったつもりでお楽しみください。

左：カナレット《ヴェネツィア、サン・ヴィオ広場から見たカナル・グランデ》 スコットランド国立美術館
©National Galleries of Scotland
右：フランチェスコ・グァルディ《小さな広場と建物のあるカプリッチョ》 東京富士美術館
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

無言館と、かつてありし信濃デッサン館―― 窪島誠一郎の眼
10月12日［土］－12月15日［日］

窪島誠一郎という稀有な目利きによって実現した〈信濃デッサン館〉（1979年開館―2019年閉館）と〈無言館〉（1997年開館）のつながりに目を向ける初めての展覧会です。本展では、〈無言館〉に集められた戦没画学生の絵や彫刻とともに、〈信濃デッサン館〉旧蔵の「夭折」した洋画家村山槐多や関根正二、靉光らの絵をご紹介します。人生半ばで世を去った彼らには、戦争と病いという違いはあっても、最期まで絵筆を手放すことなく、絵を描きたいという思いが共有されています。その情熱、創造の原点に触れていただく展覧会です。

関根正二
《自画像》
長野県立美術館
（信濃デッサン館コレクション）

中村萬平
《霜子》
無言館

生誕140年記念　石崎光瑤（いしざきこうよう）
2025年1月25日［土］－3月23日［日］

石崎光瑤《煤雨》（左隻）　南砺市立福光美術館

石崎光瑤《白孔雀》（右隻）　大阪中之島美術館

まばゆいばかりに輝く花鳥画。明治後期から昭和初期に京都で活躍した画家・石崎光瑤（1884–1947）が切り開いた、豊麗な色彩溢れる独自の世界です。
富山に生まれた光瑤は、江戸琳派の山本光一に学んだのち、京都に出て竹内栖鳳に入門。大正５年（1916）にインドを訪れて熱帯の風物に魅せられたのを機に、絢爛、濃密な花鳥画の世界を確立しました。狩野派の障壁画など日本の古画にも真摯に学びましたが、特に、大正末期というごく早い時期に伊藤若冲に注目し、若冲再評価の先駆けになった点は重要です。
花と鳥の理想郷を目指して探求を続けた光瑤。その画業を全国規模で紹介する初めての展覧会です。

収蔵品展
1. 新収蔵品展
4月10日［水］－7月7日［日］

2023年度は、20点の作品が当館のコレクションに加わりました。日本画1点、西洋美術2点、日本洋画2点、現代美術作品13点の計18点をご寄贈いただき、日本洋画2点を購入しました。これら新収蔵作品を、関連作品とともにご覧いただきます。会期中、展示替えを行います。

中村一美《ユガテVII（Social Semantics 16）》

ケーテ・コルヴィッツ《虐げられた人たち》

川村清雄《松竹梅》

2. カナレットとヴェネツィアの輝き展関連展示
ピラネージとローマの景観
7月18日［木］－10月6日［日］

ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《フォロ・ロマーノ、カンピドーリオから望む》
『ローマの景観』より

イタリア18世紀、カナレットと同じくヴェネツィア出身でありながら、ローマで活躍し、ローマを愛した版画家、建築家、考古学者のジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージの描き出す、ローマの姿をご覧ください。

収蔵品展
3. ロダン館開館30周年記念
描く、作る、変化する：ロダン―《地獄の門》ができるまで（仮称）
10月9日［水］－12月15日［日］

ロダン館開館30周年を記念し、ロダンの代表作《地獄の門》を様々な関連作や資料によってご紹介します。《地獄の門》は、スケールの大きさ、長い構想期間、数多くの逸話を残す点で、彫刻家ロダンの人生と制作活動を象徴する作品です。約40年の長い制作期間において、素描、複数のマケット、そして門から独立した数多くの彫刻など、多岐にわたる関連作が生まれました。巨大な彫刻作品ができるまでどのように変化し、発展したのか。作者のアイデアや制作のプロセスに迫ります。

オーギュスト・ロダン《考える人》（小型）

4. 石崎光瑤展関連展示
第1部　異国への眼差し／第2部　絢爛たる花鳥画
第1部　2025年1月4日［土］－2月16日［日］　第2部　2月18日［火］－4月6日［日］

石崎光瑤が伊藤若冲の画業に魅了されたことにちなみ、若冲作品を陳列する展示を二部構成で行います。第1部では、光瑤がインドを訪れた経験を自作へ昇華させたことを踏まえ、海外からの影響が反映された日本の絵画に注目します。第２部では光瑤が得意とした花鳥画をテーマとし、江戸時代の作品を中心にご覧いただきます。

伊藤若冲
《樹花鳥獣図屏風》（左隻）
※本作（右隻を含む）の展示期間は、変則的に1月24日～3月23日です。ご注意ください。

静岡県の各地域の皆様に、当館の活動を紹介する展覧会です。
今年度は下記の通り開催します。
島田市金谷生きがいセンター夢づくり会館
会期　2024年9月14日（土）～9月29日（日）

企画展　収蔵品展　移動美術展